



砂時計しかない



Canan

閉じてしまった世界を再び開こうとすることはおこがましいと思えるくらいに困難だ。

肉体に宿る物理的な力だけでこじ開けるなどと無粋な真似は許されていない。

しかしその力がなければ世界を説得させ得たとしても一分の隙すら現れてくれないのが現実である。

ちょっと病気っぽい、と言われる。そう、病気っぽいのかもかもしれない。ところがこれは紛れもない事実なのである。閉じた世界には戻れない。否、戻ることは可能とも言えよう。だけど戻ったところで何も変わりはない、なんてたって眺めるだけ。額縁に飾ったひとこまの記憶に終焉なんかはないのよとうそぶけば何を小賢しいといなされた。触れないなら見ても同じだ。その時々を生々しいリアルを再び体感するなど、笑止。そう、世界を閉じるのは滞留させないためなのだ。滞った血流をよくして二酸化炭素と酸素を取り替える作業。代わりにするにはあまりにお粗末な世界が眼前に広がる。あーあ。と後悔。押し流されないように必死に縋りついたのに、あがいても無情なまま。アクリル樹脂で覆われた世界。60センチの分厚さは体当たりでも通れない。はいおしまい。眺めてるだけならただよ。甘言。来ないと死んでしまうと云わんばかりの眩しさが荒涼とした砂漠を照らす。りんご模様が美しい。腐ったみかん、と形容したらなるほどそうかもしれないと一人納得する。為になるのは届かないものより届くもの。非現実とあいまいな葛藤にほだされて今日も一人透明なプラスチックの向こう側へ。思考はとまらない。錆付いたからだか思考とかけ離れていく。ぐんぐんぐんぐん。ラクダの足跡。いいえライオンなんていないと真っ向から否定。あなたが同じところをぐるり。3回まわって座り込んだ。月が昇った。太陽は沈まない。2つの月かい？そうさ、オリジナル。いいや、オリジナル。月は唯一のもの。君の世界で2つが1つであろうと3つであろうと構いやしない。一緒になっていなくなる。おや大変。どこにも何にもありやしない。おやうれしい。どこにも何にもありやしない。閉じた世界が右と左でひとつずつ。誰にもいらぬようだからね。古い切手が散っていく。なんてこと。新しいのはいかがです、記念切手なの。どこに。足りないのはどこにやったとひと悶着。ダイスを振った。11面の黒と1面の赤。レベルアップまで124億3943万8205の経験値が必要です。レベルアップまで124億3943万8205の経験値が必要です。レベルアップまで124億3943万8205の経験値が必要です。再びおいでおいでと砂漠が手を振る。勇敢な新芽が摘まれていく。愚かなことを。平然と午睡を。一杯の水でブレイクタイム。本日の営業は終了いたしました。またご来場ください。森の呼吸が聞こえるか？ええ、木など生えておりません。大多数はわかりやすいほうに流れていくものだ。水の流れに従っていればよかったものを。愚かなのはどちらだ。疑うな。慣れろ。振り返るな。樹脂の中は無菌だ。その覚悟があるか。いくらでも。

紅葉したわずかな葉が落ちる。いつぞやの景色のまま。足場が崩れてゆく。ざら。ざら。狭い通路を通り抜けて階下へ。踏みしめる限り黄土色。揺れる。揺れている。空が降ってくる。のこぎりほどの繊細さを持つこの精神に何の影響があるものか。ぐるり。既視感が満ち満ちた。夜は来ないか。朝はいつか。ぐるり。長いこと待った。ようやく悟ったのだ。進むことも戻ることも、もうままならない。蜂の腰を行き来して、豊かになることのない砂漠とアクリル樹脂の向こうへ思いを馳せるだけ。はなしはこれでおしまい。